

⑥ 骨髄穿刺（マルク）は何を調べているの？

骨髄は血液を作っている工場でした。工場で作られた、完成された製品の異常の原因を探るには、作っている工場を見なければ分かりません。材料が足りないとか、材料が不良品だとか、邪魔するヒトがいるとか、怠けているだけなのか・・・色々です。それゆえに血液の異常も、骨髄を見なければ分からないことが多いのです。

骨髄を見る理由は、血液を作る能力（造血能、ぞうけつのとよびます）が落ちていないかどうか？血液が作るのを邪魔する者がいないかどうか？作られている過程の血液の形がおかしくないかどうか？などを調べます。

骨髄は、周りを骨で囲まれた空間ですので、外から針を刺して骨髄に貯まっている血液（骨髄液、こつずいえき）を注射器で引き、ガラスの上に展開して顕微鏡で見ます。また遺伝子（設計図）の異常やフローサイトメトリーといって形だけでは分からない詳しい検査も解析することができ、これらの情報を総合して診断確定いたします。

骨髄穿刺は、一般的に腰の骨（腸骨、ちょうこつ）や胸の骨（胸骨、きょうこつ）から行います。

